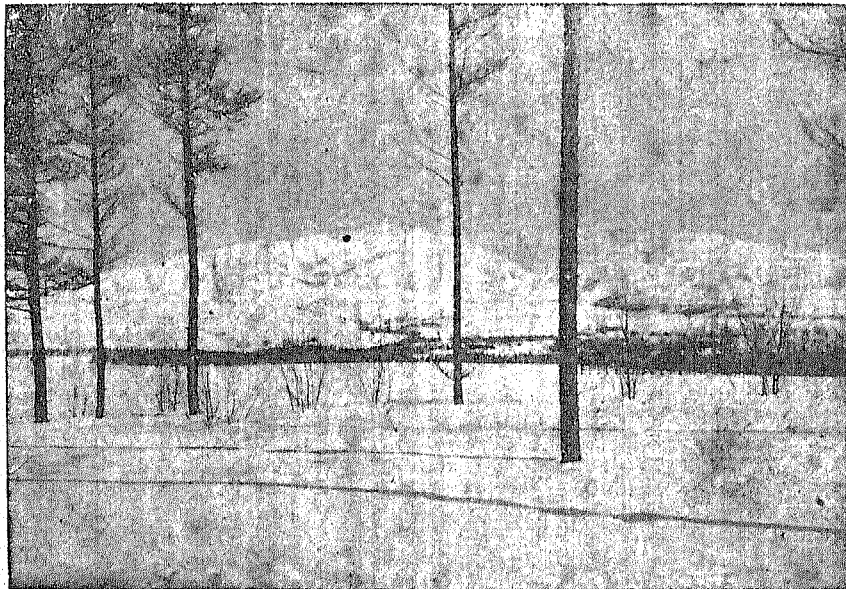


# 東千曲會報

昭和十八年二月二十五日

第五十二號

社団法人千曲會



菅平風景

## 目次

- △満洲事情に就て……………湯川秀夫(二)
- △科學點描(8)……………(三)
- 灸の効果……………
- 砂糖より二千倍甘い油……………
- 凍傷に効くビタミンB<sub>6</sub>……………
- △母校便り……………(三)
- 運動週間……………
- 寒稽古施行……………
- 武裝行軍競技……………
- 母校入學志願者數……………
- 製絲教養婦養成科の科名並に規定變更……………
- △地方通信……………(四)
- ピルマ通信……………
- △本會記事……………(四)
- 本會日誌……………
- 神奈川千曲會役員……………
- 銃後資金應募者……………
- 石倉先生退官記念品受領報告……………
- 會費領收……………
- △就任辭令……………(五)
- △訃報……………(六)
- 死亡會員遺族よりの禮狀……………
- 弔慰金報告……………
- 弔慰金募集……………
- 故中曾根長男氏遺児養育資金受領報告……………
- 川瀬惣次郎博士の御逝去……………
- 福谷兄の長逝を悼む 矢澤茂登……………
- △石倉先生記念品贈呈資金募集……………(七)
- △會員動靜……………(八)

母校に於ては十二月二日、大東亞戦下、日滿一體の關係を一層強化するを要する時、又吾々千曲會員の大體發展上にも大陸の事情を知ることが痛感される時、去る日千曲會總會出席のため來校されたる養蠶科第一回卒、湯川秀夫氏を聘して滿洲事情に就いて二時間の特別講演を開催した。以下は其の概要である。

## 滿洲事情に就て

湯川 秀夫

私は卒業當時臺灣へ就職希望であつた關係でアミ大島へ勤めました。其處で養蠶をやつたが一度内地へ歸り、其の後佐藤利一先生のお世話で滿鐵の柞蠶試験場へ行きました。其の後滿洲國が出来、試験場も同國へ移りましたので本日まで其處で働いてゐた。昨年柞蠶試験場を安東近くへ造つたがこれが本場となり中心となつて活躍することになった。滿洲は大東亞共榮圈プロックの始めの國であり、本年拾周年式典をあげて漸く旺んとなつたが、過去二十年の生活をかへり見て感慨無量なるものがあるが又愉快でもある。

本日は纖維の概念、滿洲國の状態及同窓各位の活躍状態に就てお話する。

### 滿洲國の纖維事情

滿洲の農業に就て述べると氣候は大陸的に氣溫差大で乾燥してゐる。雨量が少く晴天が續く、雨は時を定めて降る、欠點としては雨の需要期に少ないことである。日照が強いので北海道の札幌附近の緯度である奉天でも綿が出来る。生活状態に就いては氣溫は低いが日が照ると暖い。

纖維資源としては

### 一、動物纖維

A、家蠶……大正三年頃に研究した、

今でも奉天省か安東省では少しやつてゐる、氣候の關係上春蠶も夏秋蠶も都合であり、桑も土地がよいので良く繁生する。昭和二年時の山本滿鐵總裁が家蠶を中止した、其の理由は今年も経てば引上げる情勢にあるから此處へ蠶を残して置いてはいけなと云ふのである。私は色々意見を具申したがいかんかつた。次の總裁の時又建議し農林省へも行ったが當分はいけなと云はれた。現在では纖維欠亡のため農家の六〇—七〇%は家蠶をやつてゐる。殊に大東亞戦のため日本の輕工業は大陸へ行くので將來は有望だらう、然し日滿議定書によりある程度の制限がある。將來は旺んにならう。

B 柞蠶……之れは昔からあり滿鐵でも大いに奨励した。柞蠶は奉天、安東及通化省の特産である。飼育面積は長野縣より廣く耕地の十%内外である、柞樹は火に強いので野火を付けて焼くと之の樹のみに残る。柞蠶は印度の原蠶であるが三千年—四千年の年を経て山東より入つて來た(今より二五〇年前である)、殊に旺んになったのは日露戦後で、出來た絹紬は外國に喜ばれた。柞蠶飼育面積は四十萬ヘクタールで日本の桑園と同面積である。之れも滿洲事變不景氣となり景氣のよい時は百億粒、十萬ビクル出來た

ものが不景氣の時は八十億粒位となつた之れを何とかしやうと今の岸商工大臣と相談して滿洲柞蠶會社を造つた。其の後日支事變のため敵性國がボーコットしたので又不景氣となつた。然るに今は羊毛欠亡のため挽手を以て之れの代用としやうとし今では柞蠶の六十—七十%を之れに使用しやうと計畫してゐる。又絹紬は南方の日光の強い所には最も都合なので最近では又絹紬も要望されて來た。軍に於ても南方の將校服地は絹紬で造れと云つてゐる。又北滿の警備のために之の眞綿が要求されてゐる。其の他の代用纖維には再生纖維にも之れを入れると強くなるので内地の紡績會社でも之れを使用する様になつた。

纖維の性質は實用的に見て……太く五分デニール位あり之の點羊毛に似る、強力は大で水に浸すと更に強くなる、藥品に強く、紫外線に強く、錯合性も大である。斯様な優良な性質があるので現在ではなくてはならぬものとなつて來た。私としては育てたものとして甚だ愉快である。天蠶も少しは行はれてゐる。柞蠶の部門には同窓生が何れも重要な部門に活動しており又研究もしてゐる。

C 寬麻蠶……油が使用されるが之の種子は高く賣れない、其處で蠶を飼はせやうと考へて印度から持つて來たが途中で腐り失敗したが今は漸く旺んとなり初めた。

D 樗蠶……ヒマ蠶は日支事變後必要性が認められ今の處は軌道に乗つてゐないが將來は發展しやう。樗蠶は休眠性があるので之れが研究されており樗蠶と寬麻蠶を交雜して新品種を造らうと考へた。E 羊毛……蒙古では古くからやつてゐ

た。其の目的は肉食のためであつた。滿洲では之れを、リノと交雜して毛をとる工夫をした。只蒙古人は文化が低いから羊毛の改良は困難であり、普及も困難なり、單位面積からとれる纖維は一ヘクタールから柞蠶は三十封度、羊毛は六七封度である、又樹は滿人の燃料ともなるので色々な事情から見ても柞蠶が最も有望である。

### 二、植物纖維

A 綿……滿洲國に必要量は全體五十萬ビクルである。日本、支那、滿洲と併せて二千五百萬ビクルは必要である。滿洲では國內使用の分だけでも作らうとしてゐる。氣候は夏はよいが發育時の春先が良くない。大體に於て綿作は適當でない。只今〇〇ヘクタール作つており、〇〇萬ビクル位とれる、仕事には綿花會(奉天省の南部)がたづさはつてゐる。B 亞麻……之れは良く出來る。現在日滿亞麻會社が出来て仕事をしており滿洲としては北方地方に多い。C 青麻……之れは自家用として何處でも作つてゐる。

D 洋麻(ケナフ)……今迄は印度のジュートが二千萬圓も輸入されたが其の杜絶の今では洋麻の増産は是非必要である。洋麻は青麻より強い、現在増産計畫を立て最近五萬ヘクタールを作つてゐるがまだ不足である。

E 大麻……從來自家用であつたのを今では大量にやつてゐる。仕事は東洋紡績でやつてゐる。

之れを要するに以上の如き麻類は今後益々發展するものと思はれる。

### 三、化學纖維

A 木材バルブ……木材は非常に多く、今バルブ會社が出来ており今の所良く行はれてゐる。

B 豆稈バルブ……之れは満鐵が研究してゐる、纖維長短く纖維としては適當でないが紙の原料として利用し得る。

C 青バルブ……鐘紡が營口に工場を持つてやつてゐるが人絹としては未だ相當の欠點がある。

D 大豆蛋白……同窓加美氏等も研究し優良なものを造つて居り、其の他の所でもやつてゐるが今食料としての豆が不足の時であるから纖維原料としては廻らないものと思ふ。

以上で大體纖維方面を申上げたが現在纖維は國內需用の二十％きり供給出来なない。食料も必要であるが北方では保温も必要なものであるから滿洲では其の必要性も痛感されるのであるが、現在最も不足してゐるものは纖維であり従つて之れを充足することは急務である。

#### 滿洲國の狀態

昔は日本の勢力も微弱であつたが建國以來旺となり本年十週年を迎えて益々發展してゐる。重工業も發展してゐる。建設の半に大東亞戰が始まり多少の齟齬は來したが大體順調に行つてゐる。現在食料、石炭等は殆んど日本の需用に應じてゐる。今後は共榮圈の中最も密接なる關係を持つ様にならう。畏くも滿洲皇帝陛下におかせられても天照大神を御祭神として建國神廟を御創建になり精神的にも物質的にも眞に日滿一體の範を示されてゐるのである。

滿洲の生活は南方の生活より遙かに良い様にも考へられる。南は心が無いが物があるが、北は物が無いが心があると云

はれてゐるが誠に至言だと思ふ。

#### 同窓生の活躍狀態

纖維部門だけでも六十人(全同窓の六十％)もあり其の重要なポストを占めて活躍してゐる。又政府關係にも相當の人数が活躍してゐる。商工方面、興業方面、纖維聯合會方面と其れ／＼活躍してゐる。現在ゐる會員は何れも捨石主義をモットーとして活躍してゐる。吾々が長い間の體験から學生諸君に要求すること

- 一、エキスパートたれ
- 二、研究心を捨てるなけれ
- 三、常識の涵養に勉めよ

以上を以て今日の講演を終わります。

(文責記者)



#### 科學點描 (8)

#### 灸の效果

近頃藥不足其の他の關係から灸が盛に行はれる様になつた。灸は漢方醫學の一部で千四百年程前(欽明天皇の御代)傳來したもので其の後日本に於て發達し今では支那から留學生が來る様になつた。歐洲へはドイツ人等が三百年程前に紹介して今日のホルモン研究の基礎となつた。ヒットラー總統始め軍隊でも健康増進のため灸をやつてゐる。灸を行ふと白血球を増し新陳代謝が盛んとなり榮養作用が良くなり心臓機能を旺盛にして身體の抵抗力を増進するのである。然も一度灸點を置いてもらへば後は自宅で費用も極めて少なく出て來るから時間的に經濟的に有効である。

又艾と線香さへあれば何んな田舎でも自由に實行出来る。近頃滿洲移民團等で旺んに利用し始めた。第一線の皇軍の健康増進のために利用出来る最も手軽な健康法であらう。

#### 砂糖の二千倍甘い油

北海道の北見地方で栽培する縮緬青紫蘇から採れる油(ペリラルデヒド)は此れをアルコールに溶すと砂糖の二千倍の甘さがある。此れは從來利用法が研究されず全部ドイツへ輸出して彼地でフランダースの香料として使はれてゐた様である。最近此の甘さが物を云つて砂糖の代用に使はれやうとしてゐる。元來同地では明治三十年頃から採油されてゐたが其の栽培も少量であり現在でも四百町歩内外であるが將來は五千町歩の栽培が要求されてゐる。一反歩收量約四斤で一斤は二十圓であるがもつと高値の公定債が設定される筈である。(東日より)

#### 凍傷に効くビタミンB

慢性的の凍麻疹や濕疹の治癒にビタミンBが効くことは最近理研の井上氏により實證されたが此れが更に凍傷(シモヤケ)にも極めて有効であることが明かとなつた。即ちシモヤケの出来るのはビタミンBの欠乏が主原因でない迄も重大な要素であると考へられる。従つて此れを多量に含んでゐる食物を攝れば有効であることになる。此れを含むものは米糠(百瓦中二厘)で従つて最近必要となつて來た玄米食は此の點からも良いビタミンBを含むものは牛の肝臓(百瓦中五厘)酵母(乾、百瓦中三厘)牛肉、鶏肉、小麦、白色玉蜀黍等にも含まれてゐる。

#### 母校便り

#### 運動週間

去る一月十四日より二十日まで一週間母校一、二年の全學生は二組に分れ冬期の體位向

上運動を施行した。夫々神社参拜、皇軍將士の武運長久祈願後、或は營平にてスキーを行ひ、或は學校にて剣道、柔道、弓道、銃剣道卓球、氷上滑走等を行ひ時局下有意義の行事をなした。

#### 寒稽古施行

一月二十二日より十日間、嚴寒の毎朝六時より七時まで全學生は勿論多數の職員も加つて剣道、柔道、弓道の寒稽古を行つた。更に午後は銃剣道をなし猛鍛錬に終止した。

#### 武裝行軍競技

一月九日に第三回目、二月十一日に第四回目の武裝行軍競技が夫々各科の力闘の下に行はれた。前者の行軍距離十八キロ、後者は二十八キロで、各科より約二十五名づつを選出し、各々力走又力走、觀るものを手汗を握らしめ、さながら戰場を思はしむる感があつた。其の綜合成績は第三回は紡織科、養蠶科、製絲科、纖維化學科、第四回は養蠶科、紡織科、製絲科、纖維化學科の順位であつた。

#### 母校入學志願者數

本年度入學志願者のメ切が二月十五日を以て行はれた。其の結果、養蠶科一〇六名(四〇名)製絲科九名(四〇名)紡織科九名(三〇名)纖維化學科一一二名(四〇名)括弧内は定員數)で合計四〇八名となり三倍弱の競争率となつた。因みに試験期日は三月二十三日、廿四日、廿五日の三日間に行はれ、課目は數學、國史、理科生物、國語に就て行はれる。

#### 製絲教養婦養成科の科名並に規定變更

昭和十七年十二月以降、從來の母校製絲教養婦養成科は製絲教養婦科と改名され、同時に昭和十八年四月以降、修業年限二年を一ケ年に短縮された。又この入學試験も學課試験を廢し身體検査と口頭試問のみにて行ふこととなつた。



[illegible]



年功加俸年額金百四拾四圓下賜(七月二十七日)	同日同金百九拾貳圓下賜(十一月十九日)	公立實業學校教諭	中尾小太郎
六級俸 當分千七百九拾圓下賜(十二月三十一日)	勳八等 牛草 榮喜	同	原田 種龜
敘勳七等授瑞寶章(九月八日)	敘勳五等授瑞寶章(一月十五日)		岩切 作次

製絲科長兼教婦養成科長ヲ命ス	教授	林貞三
製絲科長兼教婦養所科長ヲ免ス (以上十七年十二月二十三日)	教授	井上柳梧
圖書課長ヲ命ス	教授	小泉所
圖書課長ヲ免ス(以上十七年十二月二十三日)	教授	羽鳥不二夫
昭和十七年十二月三十一日召集解除ノ爲復歸 一月二十一日ヨリ就任	副手	松林元一
講師ヲ囑託ス(無給)(一月三十日)	小林敏	
副手ヲ命シ絹紡織科勤務ヲ命ス(一月廿九日)	叶澤弘	

二月二十八日  
故瀧澤七郎氏 父 瀧澤彦衛  
弔慰金報告  
（二月五日現在）

政渡邊善次氏弔慰金	金壹圓也	町田	博
右合計金壹圓也	累計金貳拾圓也		
政唐澤正氏弔慰金	金參圓也	磯部	鐵雄
金貳圓也	金壹圓也	西田	正
右合計金六圓也	累計金拾壹圓也	前島	正直
政原利直氏弔慰金	金貳圓也	栗栖	忠士
右合計金貳圓也	累計金參圓也		
政杆滿氏弔慰金	金貳拾壹圓也	蠟二九卒業生一同	
右合計金貳拾壹圓也	累計金貳拾壹圓也		
政瀧澤七郎氏弔慰金	金五圓也	市原	政治
金參圓也	宇田	哲郎	
金貳圓也	若林	康弘	矢野
右合計金拾四圓也	中西	全	
累計金拾四圓也			

昭和十八年一月  
 社団法人 干曲會  
 故唐澤 利正氏  
 故原 直正氏  
 故坪 滿三氏  
 故尾崎 滿三氏  
 故谷崎 納九氏  
 故福本 貞雄氏  
 以上六氏に對し弔慰金を募集致します。  
 故唐澤氏、故原氏、故坪氏、故尾崎氏は  
 二月末日、故福谷氏は三月末日、故福本氏  
 は四月末日迄に取纏め御遺族へ贈呈致し  
 たいと思ひます。それから夫れに間に合ふ様  
 替口座東京四三三四一番へ各故人に對す  
 る弔慰金の旨御記入の上御拂込下さい。

畜產試驗場報告

喜正  
一義

[illegible]

### 故中曾根長男氏遺兒 養育資金受領報告

(二月五日)  
(現在)  
金五圓也 西田 正 湯本益次郎  
右合計金拾圓也  
累計金拾參圓也

### 川瀬惣次郎博士御逝去

大正年間本校に於て化學と土壤及肥料學を擔當せられ傍ら幾多の研究業績を残された川瀬先生は昭和になりてより東京帝大農學部教授として榮轉せられたが病を得その回復渺々しからず、昭和十四年四月十三日退官せられ徳島市に於て専ら御静養中であつたが胃腸の爲め遂に御逝去遊ばされた由二月一日計報に接した。

先生は本校及び東京帝大に職を奉ぜらるゝ事二十有餘年の久しきに及び、其間主として蠶桑化學の方面に貢獻せられた功績の大なるは周知の事であるが、今御逝去遊ばされた事は誠に斯界の一大損失にして遺憾の至りである。

川瀬先生の事については御退官の折昭和十四年七月號の千曲會報に登載されてあるから此處に改めて記す事は見合せ。因に先生の御遺族は徳島市徳島本町一ノ三四川瀬みさほ様である。

### 福谷兄の長逝を悼む

朝鮮千曲會 矢澤茂登一

十二月十二日北背の小笠原兄より福谷兄が急逝せられた由計報に接し驚愕に堪へず、早速小笠原兄に逝くなられた様子を問合せて處十一月二十日に學校の教務の査問があり、其の日合増しい寒さであつたが終日生徒と行動を共にし校庭に立詰めて居られた爲、遂に風邪を引込まれたが、職務に忠實な君は病氣を押して二十四日迄出勤された。二十五日に安靜療養に努められたが病勢は悪化し、肺炎となり腎臓を冒し遂に胸に來て主治醫や御家

族の手厚い看護も其の効を奏せず、十二月十一日午前十一時五十分其の職に殉じ不歸の客になられた由を承り居り感激に打たれ悲愴の念を深くしたのである。想へば一昨年長男の方(陸軍中尉)が戦死され哀愴の情未だ癒へざるに、御主人たる君が又殉職せられ重なる御不幸に御室嬢や御子供さん方の御心中は御察し申上げるに断腸の思があり、御慰め申上げる言葉もない、只た合掌して御冥福を御祈り申上げるより外はない。

君は質實温厚所謂不實實行型の人で卒業後教育界に身を投ぜられ、名利を外に孜々としず、殊に來館以來半島農業教育界に貢獻したる御功績は實に偉大なるものがあり、將來君の人格手腕に倣ふところ頗る大なるものがある。今にして君を喪へるは半島教育界の一大損失であつて、君を知れる教育界の人士を始め教養を受けた子弟は口を揃へて君の長逝を悼み、今更乍ら君の遺徳を追憶欲して居る。

君は多年内地に於て教育界に盡せられて居つたが更に半島青少年の教養に身を捧げんと深き決意を以て、先年忠清北道の招聘に應じ永同農業補習學校に來任せられた。當時自務は京畿道府に在勤して居つたが君の温容に接し來館の勤機や抱負などを例の通り微笑をたへたて言葉少なく話されたが、同校はやがて甲種農業學校に昇格する意圖の下に設立されたのであつた。農村振興運動の酣なる折柄從來の農業教育の形骸を脱し物心一如の農業教育を施すべく、施設は勿論生徒の訓練も新機軸に基き校長陣頭主義でやつて居ること新機軸に基き校長陣頭主義でやつて居ること校長陣頭主義の君の活動は遂に實を結び特色ある農業學校が生まれ格別の進化した。昇格と同時に君は最も歴史の古い清川農業學校校長の榮職に就かれたのである。此の學校は寒地帯農業の改善發達の爲特殊使命を帯び設立された學校で、學務當局は君の人格者の才幹により設立の目的を達成せんとし君に白羽の矢を立てたのである。同地は咸鏡南道真地郡の僻地の地にあり寒氣も酷しい地であるが、君は敢然として之を受諾し勇躍赴任せられたのである。思ひきや此の地が君の臨終の地ならんとは。君が倒れる迄数壇に頭張れたことや、御長男の戦死の際弔問者に「もう一人男の子があるから軍人にしつて御奉公させたい」と語られたことを想出し君の崇篤なる人格がしのばれて飲仰追慕の念が湧き出て痛惜に堪へぬ。然し君の徳風は君の薫陶を受けた半島青年の血脈に永遠に鼓動し、半島農業開發の潜在力となるであらうことを想へば聊か慰められるものがある。在鮮同志と共に香を焚き謹而君の靈を弔ひ御冥福を御祈り申す。

### 石倉先生記念品贈呈資金募集

拜啓 時下愈々御清適之段奉慶賀候  
諸君御承知の如く石倉先生は母校開設と殆んど同時なる明治四十四年十月御就任以來今日迄實に參拾有餘年の久しきに亘り母校のため將又我國絹業開發のため全力を傾けて御盡瘁下され其御功績誠に甚大にして吾々會員一同常に感佩に不堪處に有之候  
然るに今般御家庭の都合上、内外の御留任懇請も御聽容れ願へず母校御退職の上最近建築竣工せる東京郊外の御新居に御轉宅被遊候  
就ては此際先生の御功績を讃え且多年の勞に酬ひんため資金を募集し記念品を贈呈し聊か感謝の微意を捧げ度く候間左記要項御諒承相成御賛同の上御贈金被下度此段御依頼旁々貴意得候  
敬具

### 募 集 要 項

- 一、 贈出金額 御隨意
- 一、 申込期限 本年四月末日
- 一、 送金先 上田蠶絲專門學校千曲會宛(振替口座長野六二四三番)但石倉先生記念品贈呈資金なる旨御明記願上候
- 一、 受領證及收支清算報告 千曲會報五月號の紙上に報告す

- 一、 記念品の選定及贈呈方 發起人に御一任相成度  
昭和十八年一月 以上
- 發起人(順序不同)  
鈴木 教吾 林 貞三  
森田 美二郎 野口 新太郎  
松澤 季美徳 小松 忠太郎  
湯原 清和 遠藤 文平  
香山 忠雄

昭和十八年二月二十日印刷(非賣品)  
昭和十八年二月廿五日發行  
上田蠶絲專門學校内  
編輯兼 發行所 萩原 清治  
上田市原町五七九五  
印刷人 中澤 印 刷 所  
上田市原町五七九五  
印刷所 中澤 印 刷 所  
發行所 上田蠶絲專門學校内  
法人 千 曲 會  
電話 上田四〇六番 六六番  
振替口座 東京四三三番 六三番  
長野四三三番 六三番

(二月十日現在)

[illegible]

發行所

上田蠶絲專門學校  
駐園 法人 干

（振替口座）東京四三三番一番  
長野 六二四三番